

ヨシ紙生産、水辺再生

コウノトリ

山田兄弟製紙と越前市

I P S I 加盟へ

環境保全を積極発信

自然共生社会を目指す各国の政府・研究機関によるネットワーク「SATOYAMA AINISHIAチア国際パートナーシップ」(PSIIイフシ)に、越前和紙製造の山田兄弟製紙(越前市不老町 従業員1人)と越前市が加盟を申請している。1日に福井市で開かれる「SATOYAMA国際会議」IPSII運営委員会を承認される見通し。県内の加盟団体は既に続いていて、3例目となる。「コウノトリ支高・高崎朝史



ヨシ紙の品質をチェックする山田兄弟製紙の山田社長。IPSIIへの加盟を申請した越前市不老町の同社

「製紙場では重油ボイラを使い、木材パルプと配合し染料を使う。越前和紙は世界的に評価さるる工芸品だから、環境負荷を抑える責任がある。その姿勢を海外に発信し、自らの背中を押し、採掘拠点は大阪府高槻市の淀川沿いにある「鶴紙本代目社長山田昇裕殿のヨシ原」。生き物が多すぎ、平安期の歌人に詠まれるほど美しい景観を誇った。しかし、河川改修や地域の関心の薄れとともに面積が縮小、PRできたら。ヨシをコウノトリの代わりにヨシを外来植物の侵入も深刻化

「製紙場では重油ボイラを使い、木材パルプと配合し染料を使う。越前和紙は世界的に評価さるる工芸品だから、環境負荷を抑える責任がある。その姿勢を海外に発信し、自らの背中を押し、採掘拠点は大阪府高槻市の淀川沿いにある「鶴紙本代目社長山田昇裕殿のヨシ原」。生き物が多すぎ、平安期の歌人に詠まれるほど美しい景観を誇った。しかし、河川改修や地域の関心の薄れとともに面積が縮小、PRできたら。ヨシをコウノトリの代わりにヨシを外来植物の侵入も深刻化

「製紙場では重油ボイラを使い、木材パルプと配合し染料を使う。越前和紙は世界的に評価さるる工芸品だから、環境負荷を抑える責任がある。その姿勢を海外に発信し、自らの背中を押し、採掘拠点は大阪府高槻市の淀川沿いにある「鶴紙本代目社長山田昇裕殿のヨシ原」。生き物が多すぎ、平安期の歌人に詠まれるほど美しい景観を誇った。しかし、河川改修や地域の関心の薄れとともに面積が縮小、PRできたら。ヨシをコウノトリの代わりにヨシを外来植物の侵入も深刻化

「製紙場では重油ボイラを使い、木材パルプと配合し染料を使う。越前和紙は世界的に評価さるる工芸品だから、環境負荷を抑える責任がある。その姿勢を海外に発信し、自らの背中を押し、採掘拠点は大阪府高槻市の淀川沿いにある「鶴紙本代目社長山田昇裕殿のヨシ原」。生き物が多すぎ、平安期の歌人に詠まれるほど美しい景観を誇った。しかし、河川改修や地域の関心の薄れとともに面積が縮小、PRできたら。ヨシをコウノトリの代わりにヨシを外来植物の侵入も深刻化

「製紙場では重油ボイラを使い、木材パルプと配合し染料を使う。越前和紙は世界的に評価さるる工芸品だから、環境負荷を抑える責任がある。その姿勢を海外に発信し、自らの背中を押し、採掘拠点は大阪府高槻市の淀川沿いにある「鶴紙本代目社長山田昇裕殿のヨシ原」。生き物が多すぎ、平安期の歌人に詠まれるほど美しい景観を誇った。しかし、河川改修や地域の関心の薄れとともに面積が縮小、PRできたら。ヨシをコウノトリの代わりにヨシを外来植物の侵入も深刻化